



北斎漫画の

広がり

— 19世紀ヨーロッパに
渡った日本のイメージ —



開催場所

帝京大学総合博物館ミュージアムプラザ

開催期間

2026年7月9日(木)～7月28日(火)

休館日

日曜日、祝日、創立記念日、臨時休館日

開館時間

9:00～17:00 (16:30最終入館)

北斎漫画の広がりー19世紀ヨーロッパに渡った日本のイメージ

展覧会について

19世紀後半、日本の開国をきっかけに、浮世絵や工芸品、染織品など多くの日本美術がヨーロッパへ渡りました。それらは、それまでの西洋美術には見られない大胆な構図、平面的な色面、装飾性、自然や日常へのまなざしによって、多くの芸術家やデザイナーを魅了しました。

本展では、葛飾北斎の絵手本『北斎漫画』を出発点に、日本美術が19世紀ヨーロッパでどのように受け止められ、絵画、版画、デザイン、雑誌などにどのような広がりをもたらしたのかを紹介します。

本展は、帝京大学文学部史学科「美術史文化遺産実習」の授業の一環として企画されました。受講生たちは、資料調査や文献研究を行い、その成果をもとにパネルやキャプションを作成しています。本展が、日本とヨーロッパの文化交流の歴史や、日本美術が海外で受け入れられていった過程について考えるきっかけとなれば幸いです。

展示を読み解くキーワード

ジャポニスム

19世紀後半のヨーロッパで広がった、日本への関心とその影響を指す言葉です。浮世絵、陶磁器、漆器、染織品などは、万国博覧会や美術商、出版物を通じて紹介され、近代の芸術やデザインを新しく考える手がかりとなりました。

葛飾北斎（1760-1849）

江戸時代後期を代表する浮世絵師です。『富嶽三十六景』の《神奈川沖浪裏》で広く知られます。風景、人物、動植物、妖怪、日用品にいたるまで幅広い題材を描き、その自由で観察力に富んだ表現は、ヨーロッパの芸術家たちにも強い関心をもって受け止められました。

『北斎漫画』

北斎による絵手本集です。現在の物語漫画とは異なり、人物、動物、植物、風景、道具、しぐさなど、多様な題材を集めた絵の百科事典のような出版物でした。ヨーロッパでは、日本美術の造形感覚を知る資料として注目され、画家やデザイナーに刺激を与えました。

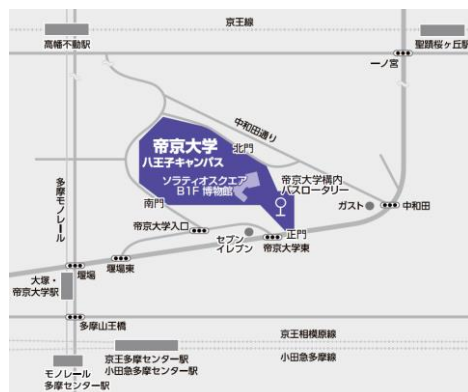
『芸術の日本』

パリの美術商ジークフリート・ビングが1888年に創刊した美術雑誌です。日本の美術工芸を図版と解説によって紹介し、ヨーロッパの読者にその魅力を伝えました。ジャポニスムを広めるうえで重要な役割を果たした出版物のひとつです。

エミール・オルリク（1870-1932）

プラハ出身の画家・版画家です。1900年に日本を訪れ、木版画の技法や表現に関心を寄せました。オルリク作品には、余白を生かした構図、平面的な画面構成、簡潔な線描など、日本美術から学んだ要素が見られます。日本美術がヨーロッパの版画表現に与えた影響を考えるうえで重要な作家です。

交通アクセス



帝京大学総合博物館 **TUM**
Teikyo University Museum

〒192-0395 東京都八王子市大塚359 帝京大学八王子キャンパス
ソラティオスクエア地下1階
TEL:042-678-3675 FAX:042-690-8231
ホームページ <http://www.teikyo-jp/museum/>

* 大学構内に来館者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
* 高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です。(15分~20分)
* 車いすで来館予定の方は、事前にご連絡ください。